

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：15101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26740060

研究課題名(和文)国際環境認証制度(水産物)による資源管理ガバナンスの変容に関する研究

研究課題名(英文)The analysis on the transition of non-governmental resource management governance through International seafood sustainability certification schemes

研究代表者

大元 鈴子(Omoto, Reiko)

鳥取大学・地域学部・准教授

研究者番号：70715036

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文):本研究で扱ったエコラベルを伴う国際資源管理認証制度は、市場原理を利用した資源管理の手法であるため、消費者や小売企業への持続可能な製品選択肢の提供が重視され、またそのような視点からの研究が大半であった。本研究では、実際に認証を受ける主体である生産者がどのような観点から認証の取得を目指すのかを分析し、その視点から認証制度の制度設計についての検討を行った。水産認証については、MSC認証とASC認証を検討し、またそのほかの国際資源管理認証であるFSCやRSPOの研究を行う研究者やNGOとも共同で、『国際資源管理認証 エコラベルがつなくグローバルとローカル』を本研究の最大の成果として出版した。

研究成果の概要(英文): International resource-management certification schemes dealt in this research are based on the market mechanisms therefore existed research have been focused on how these schemes with their eco-labels expand choices for consumers and retailers for their sustainable choices. However certification itself are granted to resource users (producers) and it is important why and how producers go for certifications. Based on this viewpoint in this research focused on the governance transition and improvement of seafood sustainability certifications namely Marine Stewardship Council's and Aquaculture Stewardship Council's schemes. In addition to those, I have collaborated with researchers who work on FSC(timber) or RSPO(Palm Oil) and published the book titled "International Resource Management Certifications- Eco-labels connecting global and local" (in Japanese).

研究分野：フードスタディーズ

キーワード：国際資源管理認証 海洋管理協議会(MSC) 水産養殖管理協議会(ASC)

1. 研究開始当初の背景

エコラベルを伴う環境認証制度は、市場原理を利用した資源管理の手法であるため、消費者や小売企業への持続可能な商品選択肢の提供が重視されてきた。一方で、認証を受ける側である生産者への選択肢の多様性の提供という視点からの制度設計はあまりなされてこなかった。

環境認証制度は、1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロ市で開催された地球サミットで採択されたアジェンダ 21 にその有効性が盛り込まれて以来(Agenda 21, 4.21)、資源の持続可能な利用のための非政府ガバナンス機能として、過去 10~15 年の間に広く普及した。そのパイオニア的存在としては、国際的な持続可能な森林利用の認証を提供する FSC(Forestry Stewardship Council)があり(1993年設立)、また、そのモデルを天然水産物に適用したのが、MSC (Marine Stewardship Council)である(1997年設立)、ASC(Aquaculture Stewardship Council)は、2010年に設立され、責任ある養殖水産物のための国際基準を提供している。これら、それぞれ独立して機能する3団体は、違った資源の持続可能な利用を目指しているが、設立は同じ自然保護団体が主導している(WWF)。これらの国際環境認証制度に共通の基本的な制度設計は、科学的根拠に基づいた基準を持つこと、第三者による審査、また審査の透明性(公開)そして市場原理に基づいている(消費者向けエコラベル制度)ことである(Bush et al., 2013)。こうした基本的な国際認証の「あるべき構造」を多くの認証制度が共有しているが、その認証基準設定の過程や科学的知識を含む様々な知識を基準に統合する機能はそれぞれ違っている。

環境認証制度の重要性は、単純な経済活動としての商品の売買に関わるアクター(コモディティ・チェーンと呼ばれる垂直的なつながり)だけではなく、社会的・文化的・そして環境的なより多様なステークホルダーのネットワークを構築することにある。うまく機能した場合には、資源管理に不可欠なステークホルダーに参加のインセンティブを提供することができる。そのため、新たな「規制と検証・証明メカニズム」(Hatanaka, 2005)の形であるとして、環境認証制度によって結合したステークホルダーの相互関連性をとらえる新たな分析概念の必要性が指摘されている。

上記の国際認証制度は、それぞれ違った資源を対象にしているが、環境認証制度という民間主導の資源ガバナンスという点で、ある意味相互に積み重ねてきた歴史がある。ごく最近始動した ASC については、各魚種ごとにアクアカルチャー・ダイアログと呼ばれる会議を設けて様々なステークホルダーで基準を策定する仕組みが新しいが、より経験の長い認証制度を基礎に、対象とする資源にあったより良い認証制度の仕組みが作られて

いる。この点を包括的に考察した研究は国際的に見てもまだない。

2. 研究の目的

本研究では、それぞれ設立時期の違う3つの国際環境認証制度(FSC, MSC, ASC)のガバナンスの比較により、国際環境認証制度の仕組みの発展と進化を分析し、国際的スケールにおける環境認証制度の順応的モデルの構築を目指す。

具体的には、FSC, MSC, ASC の詳細な制度比較 2) 国際認証制度のフレームにおけるガバナンスの進化に関する調査を行う。申請者は、前職では MSC 日本事務所に勤務していたため、その制度には精通している。そのため設立時期が中間に位置する MSC 制度を軸に、それぞれの制度の仕組みを a) 制度のガバナンスの仕組み b) 認証基準作成の過程と参加するステークホルダー c) 認証基準の見直しの過程とステークホルダー c) 審査と生産物流通、を比較軸に考察する。この比較を基礎にして、ASC 認証のハタ科類の基準策定アクアカルチャー・ダイアログに参加し、基準の策定過程を一から観察する。ここでは、国際認証制度に不可欠な科学的根拠と養殖の現場知との融合・妥協点と認証取得製品の流通における生産者視点の反映に注目する。

この研究の最終目的としては、国際認証制度というある種のトップダウンで形成される環境規制ネットワークのフレーム内で、ある程度ボトムアップ的に作成された ASC の認証基準が、生産地のニーズをどこまで含むことができるかを実際の基準策定過程に参加することにより明らかにする。これにより、従来の国際制度フレームを利用して起こるボトムアップ型制度設計の可能性の提言が本研究の目標である。

また、研究が進むにつれて、各レベルにおける認証の役割についても検討した。

3. 研究の方法

ASC 認証の新たな基準策定過程が、国際認証制度というある種のトップダウンで形成される環境規制ネットワークにどのように変化を与えるのかを考察するために、これまで蓄積された資料・文献を精査し、分類分けを行った。また、フィールド調査として、ASC 本部(オランダ)への聞き取り、また、ベトナムの認証取得養殖場への訪問・聞き取りを行い、さらに、シンポジウムを企画し、日本において、国際資源管理認証を生産者の視点から議論できる研究者との意見交換を行った。

4. 研究成果

当初計画していた調査としては、ハタ科類の ASC アクアカルチャーダイアログが、国際 NGO の都合により開催されなかったため、参加がかなわなかった以外は、すべて計画通りに進

めることができた。

国際資源管理認証の使い方についての国内の議論については、多様な国際認証を取得する生産者、または認証の取得によって影響を受ける生産者と住民の視点から書いた包括的に著書『国際資源管理認証 エコラベルがつなぐグローバルとローカル』（東京大学出版会）を出版したことで、促進することができたと考える。これは、日本語で書かれた複数の国際認証を扱った初めての本である。

また、この本の前段となるシンポジウムを総合地球環境学研究所にて開催し、生産者、国際 NGO、研究者、消費者という多様な主体により議論を行った。

国際資源管理認証のガバナンス比較からは、国際レベルのみならず、ローカルレベルで活用される認証との性格の違い、また補完関係がわかり、さらなる研究の可能性を見出すことができた。本研究の進展過程で生まれたローカル認証という視点の成果物としては、『ローカル認証 地域が創る流通の仕組み』（清水弘文堂書房）を出版し、今後の持続可能性にかかる認証制度の研究につなげることができている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2 件)

1. Reiko Omoto, Multifunctionality and agrarian transition in alternative agro-food production in the global South: The case of organic shrimp certification in the Mekong Delta, Vietnam, Asia Pacific Viewpoint, 査読有、Vol57-1, 2016, 121-137. <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/apv.12113>
2. 大元鈴子、エコラベルの読み方、水産海洋研究、査読無、80(1)、2016、6-7.

〔学会発表〕(計 6 件)

1. Reiko Omoto, The value chain with eco-certification featuring flagship species- the case of Stork-Safe rice production in Japan, World Congress of Rural Sociology, 2016
2. 大元鈴子、認証制度が必要とする基礎的要件 - 国際的に認知されるエコラベルの共通点、日本水産学会シンポジウム企画委員会・水産学若手の会共催、2016
3. 大元鈴子、持続可能な漁業の要件 FAO 「海洋漁業からの漁獲物と水産物エコラベルのためのガイドライン」、日本水産学会第 63 回漁業懇話講演会、2014
4. Reiko Omoto, “ translators” in opening up environmental options for stakeholders, 14th Science Council of Asia (SCA) conference, 2014.

5. Reiko Omoto, Transformation of framing of seafood sustainability certification schemes, World Congress of Sociology, 2014

6. 大元鈴子、漁業・水産物認証制度、第 4 回全国水産系研究者フォーラム、2014

〔図書〕(計 3 件)

1. 大元鈴子、東京大学出版会、地域環境学 - トランスエヒシプリナリー・サイエンスへの挑戦（担当：12 章地域がつかいこなす認証制度）、2018、227-244.
2. 大元鈴子、清水弘文堂書房、ローカル認証 地域が創る流通の仕組み、2017、262
3. 大元鈴子・佐藤哲・内藤大輔（編）東京大学出版会、国際資源管理認証 エコラベルがつなぐグローバルとローカル、2016、238

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
大元 鈴子 (OMOTO, Reiko)
鳥取大学・地域学部・准教授
研究者番号：70715036

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者

Van Ngoc Truc Phuong (ヴァン・ゴック・トゥック・フォン)

University of Social Sciences and Humanities・地理学部・講師